

学生ヒアリングの概要

| | |
|-------|--|
| 実施日時 | 令和2年(2020年)11月12日(木)14時半~16時 |
| 参加者 | 文教大学人間科学部 森恭子教授 および 森ゼミの学生(3年生)15名 |
| 当日の流れ | 越谷市の地域福祉の現状と、第3次越谷市地域福祉計画(素案) に関する説明を行ったのち、学生から意見から意見聴取を行う。 |
| 意見数 | 意見数 15人・16件 |

ヒアリングの意見要旨と市の考え方について

| 意見 No. | ページ | 意見要旨 | 市の考え方 |
|--------|-----|--|--|
| 1 | 全体 | イラストやグラフ、写真等が入っているのが見やすい。 | 引き続き、市民にとって分かりやすい記載になるように努めます。 |
| 2 | 全体 | 越谷市では、自治会の回覧板などは回っているのか。 また地域住民同士のつながり強化のために、自治会の回覧板の中に、困りごとがあったときにそれを書いて伝えられるような紙を入れるなど、工夫ができるといい。 | 自治会の回覧板は回っているが、自治会の加入率が約 65%となっており、加入率の低下が課題となっています。 回覧板の有効活用については、ご意見として頂戴します。 |
| 3 | 全体 | 計画が完成した時はカラーで印刷されるのか。 またグラフやアンケート結果の文字が小さいところがあるのが気になる。 | 計画書は完成した時はカラーで印刷します。 文字が小さいところは可能な限り見やすくなるよう修正します。 |
| 4 | 全体 | 行政が地域のことを考えていることが伝わる計画書だと思うので、それをどんどん地域に伝えてほしい。 | 計画書を作成しただけにとどまらず、地域住民への普及啓発に努めます。 |
| 5 | 全体 | 計画書のページ数が多いので、市民が読み切れるか不安である。 | 市の出張講座を活用し、市民に説明する機会をつくります。 また、計画書の概要版を 4～8 ページで作成予定です。 |

| | | | |
|----|----------|--|---|
| 6 | 全体 | 越谷市民だが、民生委員・児童委員がどのくらい活躍しているか、どんなことをしているか分からない。 | 活動内容が正しく伝わるよう、啓発を行っていきます。 |
| 7 | 全体 | 必要な情報を、防災無線を活用して市民に伝えてはどうか。 | 防災無線は人命に関わることを中心に活用しており、必要な情報を得るための手段として「越谷 city メール」などの活用を行っています。 一方で、そのような情報が必要な市民にしっかり伝わるよう、啓発を行います。 |
| 8 | 8 | 市と社協の計画について、一緒につくるという方法もあるのではないか。 | ご指摘のとおり、市と社協の計画を一体的に作成している市町村もあります。本市も検討は行いましたが、市の計画が福祉分野の上位計画となり位置づけが変わったこと、地域における市と社協の役割が異なることから、情報共有しながら各々作成することになりました。 |
| 9 | 2章全般 | 2章の「現状と課題」は、グラフやアンケート調査の結果分析等があり、越谷市の現状が分かりやすい。市民が見たときに、2章が最初に来ているほうが、読みやすい計画書になるのではないか。 | 計画書については、まずは1章で計画の目的や役割など、基本的な事項を示したうえで2章の「現状と課題」へとつなげていく構成にしたいと考えています。 概要版をつくる際には、ご意見を踏まえ、多くの市民に興味をもってもらえるような構成にしたいと考えています。 |
| 10 | 15 | 地域包括支援センターの知名度 28.3%は確かに低い数値だが、実習等で包括の大変さを知っているため、知名度が上がることで包括の負担がさらに大きくなるのは複雑な気持ちがある。 | 相談窓口の知名度を上げることで、悩みを抱えている人に適切な支援が行えるようになると考えています。 ご指摘のとおり、相談窓口の負担が増す場合には、窓口の体制整備も併せて検討を行う必要があると考えております。 |
| 11 | 14 15 | アンケートの結果分析について、今日は説明を聞きながらだから分かったが、市民が読むときに分析内容が読みづらいかもしれない。 | 説明文を追加するなど、分かりやすい記載になるよう努めます。 |

| | | | |
|----|------|---|---|
| 12 | 19 | 市民アンケートは若い人の方が回答が少なくなると思うが、市民懇談会で若者の意見を聞いているのはいいと思った。どのような若者に対し意見を聞いたのか。 | 中学校・高校に声をかけて行っています。また本日のヒアリングも、大学生の若い世代に話を伺いたいと考え、開催に至りました。 |
| 13 | 30 | 「福祉サービスの縦割り」について、縦割りの言葉の意味が分かりづらかった。 | 「福祉サービスの縦割り」とは、福祉分野の行政窓口が、一般に、介護や障がい、子育てというように対象者ごとに担当課を分けたしくみをしていることを意味しています。 巻末の用語解説で補足するなど、分かりやすい記載に努めます。 |
| 14 | 34 | 重点事業の福祉SOSゲームの研修について、令和3年度以降の具体的な取り組みスケジュールは決まっているのか。 | 令和2年度に7地区で研修予定でしたが、新型コロナウイルスの関係で実施できませんでした。 そのため令和3年度はその7地区の民生委員・児童委員を対象に研修するところから始めたいと考えています。 |
| 15 | 34 | 福祉SOSゲームなどの地域力の向上に向けた取り組みは、すでに何かしらのボランティア活動に取り組んでいる人は協力してくれると思うが、全く何もしていない市民に対する取り組みは行っているのか。 | 令和3年度に福祉に関する啓発のチラシを全戸配布する予定です。 また地域の代表者・協力者から人づてで伝わることもあると思うので、地道に啓発活動を行っていきます。 |
| 16 | 4章全般 | 主な取り組み（事業）の担当課について、市役所のどの課がどんな業務を行っているかが分かりづらい。 | 2次計画では、事業名の詳細説明を行っていましたが、社会福祉法の改正により、地域福祉計画が福祉関連計画の上位計画となったことから、詳しい事業説明は割愛しています。 一方で、いただいた意見を踏まえ、事業や課が分かりやすくなるよう記載内容を工夫していきます。 |